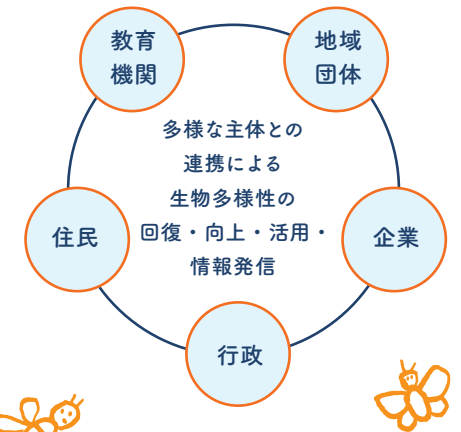


日比谷アメニスグループ 生物多様性の回復に向けた取り組み

環境への影響を抑える従来型の環境保護へのアプローチでは、もはや生物多様性の損失を防ぐことはできません。そこで、日比谷アメニスグループは、設計から施工、管理・運営に亘って多様な主体と連携をとりながら、生物多様性の損失を止め、さらに回復、活用するための行動を様々な事業分野で推進していきます。ここでは、日比谷アメニス指定管理を行っている猿江恩賜公園の事例について紹介します。

猿江恩賜公園の概要

猿江恩賜公園は、平成 23 年 4 月 1 日からアメニス東部地区グループ（代表企業：株式会社日比谷アメニス 構成企業：日建総業株式会社）が指定管理者として管理・運営業務に携わっている公園の1つです。同公園では平成 26 年度の「東京都長期ビジョン」における「多様な生物が息づく都立公園づくり」に基づき、平成 29 年度に生物多様性保全管理計画が策定されました。その後、令和 3 年度に同計画の見直しと整備工事の設計が行われ、株式会社グリーバル（日比谷アメニスグループ）により施工されました。工事完了後はアメニス東部地区グループが様々なステークホルダーと協力しながらモニタリング調査やその結果を反映した管理の検討・実施など、生物多様性の向上に向けた管理・運営を進める予定です。



設計



施工



管理・運営



令和 3 年度に東京都からの発注を受け、U-Landscape Design 株式会社によって平成 29 年度に策定された生物多様性保全管理計画の見直しと実施設計が行われました。見直しに当たっては、改めて生き物の生息・生育状況を把握するための調査が行われ、ニホンアカガエル（東京都 RD 絶滅危惧 1B 類）やドジョウ、スズエビなどが確認された一方でオオフサモ（特定外来生物）やアメリカザリガニ（緊急対策外来種（令和 5 年 6 月から条件付特定外来生物に指定））などの外来生物も確認されました。また、アメニス東部地区グループや市民団体との意見交換会が実施され、計画案の説明だけでなく、地域の方の公園に対する考え方の共有や過去の生き物の生息状況について詳しい市民団体からの情報提供なども行われました。

令和 4 年 8 月から翌年 4 月にかけて実施設計に基づきカエルやカワセミ、トンボ、バッタなど、多様な生き物が生息できる環境を株式会社グリーバルが施工しました。施工前には近隣住民や高校生と現況調査・確認を行い、工事中にカエルの通り道を妨げないための工夫につなげることが出来ました。また、施工期間中には、近隣住民や教育機関と協力し、池の水抜きを生き物の救出イベントとして実施したり、近隣の小学校を対象として公園に生息・生育する生き物について興味をもってもらうための野外授業を行ったりしました。更に令和 5 年 1 月には近隣住民や関連機関を招いて生物多様性の保全と回復を目的とした工事の中間報告会を開催しました。

施工後の管理・運営については、順応的管理を実施します。多様な生物分類群のモニタリング調査を行い、その結果を多様性運営事業連絡会（東部公園緑地事務所や指定管理者、市民団体等による意見交換会）において検討し、その後の管理や調査に反映させていく予定です。また、生き物の調査・研究のフィールドとして東京農工大学大学院や都立科学技術高校などの教育機関とも協力体制を築くことで、園の生態系や生物多様性の回復・向上に向けた管理方法に関する理解を更に深めていきます。こうした活動や活動によって得られた情報を積極的に発信することで生物多様性に関する普及啓発を進めていきます。



近隣住民や教育機関との生き物救出イベント



小学生に向けた課外授業



竣工後の生物観察会



生物多様性フェアでの情報発信



モニタリング調査に向けた関係者会議